

平成22年度 第2回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名.....安曇野市消防委員会.....
- 2 日.....時.....平成22年10月25日.....午後6時30分から午後8時00分まで.....
- 3 会 場.....堀金総合支所.....2階.....西会議室.....
- 4 出席者.....丸山重隆委員長、笠井郁男委員、中野博夫委員、横内好幸委員、宮澤一雄委員.....
.....小林光男委員、畠山忠幸委員、猿田 正委員、豊島 実委員、小出博一郎委員.....
- 5 市側出席者.....危機管理室長、消防防災担当係長、下里主査、西牧主査.....
- 6 公開・非公開の別.....公 開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成22年11月15日.....

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議事項
- (1) 諮問事項の検討について
- (2) 消防車輛の配備計画について
- (3) 団員確保策について
- (3) その他
- 4 閉 会
- 2 審議概要
- (1) 諮問事項の検討について（係長より説明）
- (2) 消防車輛の配備計画について
- 室 長 : 安曇野市の消防力を考えながら、各分団にどういった消防車輛を配備していったらよいかを
来年3月までに消防委員会に諮問をしながら、市としての基本方針を決めて配備計画を作っ
ていきたい。事務局より現状の消防車輛配置を説明させていただき、各委員さんより意見
をお聞きしたい。
- (係長より、安曇野市の現状の消防車輛配備と配備計画について配布資料より説明)
- 丸山委員長 : 事務局より説明があったが、各委員さんには次回の委員会までに、各地区の現状を把握して
いただき意見を述べていただきたい。
- 室 長 : 地理的な条件を踏まえながら、それぞれの分団に消防車輛を配備するにあたって、市街地と
か人口密集地など各地域の条件に合わせて資料を作りたい。また「ここにポンプ車が多いの
はこういう理由」など、委員さんのなかで分かっていることがあればお聞きをしたい。
- 小林委員 : ひとつのたたき台があれば。
- 中野委員 : その地域の戸数・世帯の資料があればその要因も材料となるのでは？
- 室 長 : 世帯ばかりでなく、水害が起こる場所など要因の条件を入れないと。
- 中野委員 : 資料的なものが必要ですね。
- 小林委員 : 豊科はポンプ車が無いが、ポンプ車が必要な地域も出てくるのではないかと。堀金はこれで
(ポンプ車が) 無くなるのか。
- 室 長 : 堀金はすべて可搬ということになります。三郷地域にはポンプ車が5台あります。
- 小林委員 : 将来的には、ポンプ車を堀金1台、三郷1台というような方向ですか。
- 室 長 : 将来的な配備計画のビジョンと申しますか、同じ時期に豊科で10台、三郷で5台更新とい
う時期が来るわけですから。
- 中野委員 : 車も20万キロ30万キロ走れる時代ですから。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してくだ
さい。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

- 室長：そのとおりで、一度に10台も整備できないので、市内で融通を利かせて車輛を回すことも考えています。
- 小林委員：ポンプ操法をやると新しいものが欲しい。
- 室長：耐用年数もある程度考えて、軽の積載や条件的なものなど現時的に何が必要かのたたき台を作りたい。
- 横山委員：豊科署長にお聞きしたいが、この署（安曇野市を管轄する4署）の範囲でいけるのか？
- 豊島委員：昨年、第三者機関に広域圏の常備消防の今後の方向をみてもらって、現状の範囲でいけると回答はいただいております。
- 小林委員：ポンプ車を入れるとなると、詰所の車庫の高さ・長さが問題では。
- 横内委員：将来的には詰所3つを1つにする考えも？
- 室長：まずは現状での配備を考えていただきたい。将来的な長いスパンで車輛の配置換えも出来ますので。
- 宮澤委員：先行して火災現場に行く編成を決めて議題にあげていくと、消防車輛の削減もスムーズに行くのでは。
- 室長：削減ということだけでなく、現状が良いか練っていただきたい。
- 笠井委員：市の財政でも減らしていく？
- 室長：市では口数以上に配備されているので、これからは可搬が基本ですが、必要最小限ポンプ車もここには必要だと決めなければいけない。この辺が一番の検討課題だと考えています。
- 丸山委員長：堀金は3台、可搬に決まったんですが、堀金の13分団の現役の幹部と話をして納得をしたが、納車を早くして欲しいと言っている。ポンプ操法大会に間に合わせるために早く基本操作を覚えて練習がしたいとの話がありました。
- 室長：1台入るのに4ヶ月かかる。13分団統一で入るのでご了承いただきたい。
- 丸山委員長：常備消防で豊科署が近くに控えているので、ポンプ車がなくてもいいと団員は納得したようです。
- 室長：基本的に常備消防が火災の時にすぐ来るので、消防団はその補助的な立場になりますので小型の方が狭いところも入れますし機能的です。また水利も確保しやすいとの理由があります。豊科は全部可搬ですが問題はないと聞いています。基本は可搬でいいと私は思っています。
- 丸山委員長：穂高はどうですか？
- 小林委員：穂高の場合は、ポンプ車と可搬のバランス的なものは今のままでいいと思っています。
- 豊島委員：今の配備は、合併前の町村の中だけを包括しているという配置をされていると思う。広域消防局でも範中を越えて隣からも出動できるので、現在三郷地区にある5台のポンプ車は当然堀金の火災にも来れる隊編成を作ればいいかと思う。豊科署が出動体制を執るときは、穂高署、梓川署と三隊で集まるので、自分の地区にポンプ車がないからといってポンプ車が来ないわけではない。出動隊編成を作り上げていけば、より良い広域的な消火体制も出来る。
- 小出委員：市としての基本構想を聞かせていただきましたので、団としても適材適所での配備を作っていければと思っています。
- 豊島委員：地理的な問題も課題かと思う。大規模災害を想定した場合には、川の橋がネックになると思う。災害で孤立する所も出てくるので地理的なことも考慮して配備しないとイケない。車の事を考えると二駆か四駆かも含まれてくるかと思う。
- 丸山委員長：ポンプ車の議論はこの辺でよろしいでしょうか。

(3) 団員確保策について（係長より説明）

- 係長：消防団員になる資格については、この4月に条例を改定して居住をしている人のほかに、市内に勤めている人も消防団員になれる。毎年少しずつ団員が減っているという事実があります。消防団から消防委員の方と一緒に勧誘に廻ってもらえないかという話があったら是非ともお願いしたいと思います。

丸山委員長：13分団の幹部から、1部32名体制で、そのうち出動してくるのが10名程しかいなくて活動が成り立たないのでどうしたらいいかと相談を受けた。

中野委員：豊科では区長さんをお願いして一緒に勧誘にまわった。団長さんが区長会に出て要請したらどうか。区からお願いしないと今は親が断る。昔のイメージが良くない。新興住宅街なら入る人がいるかもしれない。

小林委員：今の消防団は昔と変わった。以前に比べて活動しやすくなっていると思う。消防団に入ると自分の好きな事が出来ないとか遊びに行けないという話が出る。消防をやってみれば人生の収穫があると思う。そういう話をして誘ったらいいと思う。

丸山委員長：市の区長会まで上げなくても、各地域に区長会があるのでお願いしてもいい。

中野委員：(消防団)部というのは区が主体ですから、そういうところまでお願いしていけばいい。

丸山委員長：自主防災訓練を地区でやるようになったが、消防団の活動を区としても考えていただきながら、確保していくしかないと思う。

中野委員：私の区では自主防災訓練は子どもを主体にしている。女性消防隊で紙芝居や防犯ビデオを見せてもらってグループが出来る。子どもが出てくれば自然と親も出てくる。

丸山委員長：団員確保は永遠の課題ですね。

室長：消防団が認識されれば入ってみようかとの意識になる。イベントを通じて団員確保のPRをしている。各地域の消防団員の定数と人口を比べると、人口が少ないのに定数が多い所があって充足するのは大変。地域ごとに人口と定数のアンバランスの所があります。車輛配置計画と一緒に消防団マニュアルの素案を22年度までにたたき台を作って、23年度に完成できれば方向性が出で来ると考えています。

丸山委員長：団員確保については、消防委員の皆さんそれぞれの地域でもお願いいたします。

(4) その他(係長より説明)

- ・音楽喇叭隊演奏会について
- ・12月25日(土)年末警戒巡視激励について
- ・1月4日サンモリッツ新年賀詞交換会について

3 閉会